

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立鶴巻小学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語については、設問1三の結果から、話し合い活動の場面で、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることは概ねできています。	(1) 国語については、設問3二の結果から、自分が書いた文章に対する感想や意見を伝え合ったことをもとに、その文章の良さを見つけることに課題が見られます。
(2) 算数については、設問1(1)(3)の結果から、基本的な乗法・除法の計算をしたり、立式の理由を説明したりする力は概ね身に付いていることが分かります。	(2) 算数については、設問2(2)(3)の結果から、割合・基準量・比較量の関係やその意味を理解した上で計算をすることに課題が見られます。
(3) 児童質問紙については、「読書が好き」と回答した児童の割合が全国平均より高くなっており、学校や家庭内での読書活動の取組の成果が現れていることが分かります。	(3) 国語を中心に、全国平均と比べ無回答率が高い傾向が見られました。問題に対し最後まで粘り強く取り組み、自らの学習を調整する態度の育成が必要と考えられます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 学校経営方針「学校経営の具体方針 学習活動の充実」の中では、問題解決型学習を重視した指導の推進を掲げています。「考えて書く活動」を積極的に取り入れることで、「ノートに考えを残そう」「既習事項を振り返ろう」とする態度が育成されています。
(2) 昨年度の校内研究では、「自分の考えをもち、表現していく子どもを目指して」をテーマに、算数科の研究の中で「自分の考えをもちやすくするための手立て」と「考えの足跡を残すための手立て」を工夫し取り組んできました。取組の成果として既習事項を確認した上で具体物操作を大切にしながら、ノートに考えを残すことができるようになってきました。一方で、式にしたり説明したりすることへの難しさを感じる場面も多く、どのようにアプローチしていくかを考えていく必要があります。
(3) ICT機器の活用頻度が全国平均よりも低い結果となりました。ICT機器は情報収集や繰り返し学習の場面だけでなく、意見交換や発表の場面でも活用することができます。児童が自らの考えを発信し、協働するためのツールとしてより一層有効活用できるよう取り組んでいく必要があります。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 学校経営方針「学校経営の具体方針 学習活動の充実」の中で、「子どもを中心としたわかる授業・楽しい授業・達成感のある授業の推進」を掲げ、教材や発問、導入の工夫およびICT機器の活用を推進し、児童の学習意欲向上につなげていきます。
(2) 今年度の校内研究では、昨年度同様、「自分の考えをもち、表現していく子どもを目指して」をテーマに、算数科の研究に取り組んでいます。「子どもの考える時間の確保」「子どもが話したくなる学習の雰囲気」「考えを自由に書き表す場としてのノートの存在」「考えの足跡の残した掲示物」等をキーワードに、自分の考えを説明できる表現力の育成に努めています。また、他教科でも同様の取組を行うことで、子どもたちの「自分の考えを書いてみたい」「自分の思いを話してみたい」という意欲を高めていきたいと考えています。
(3) ICT機器の有効活用には、教員のスキルアップが不可欠です。ICTマイスターの教員を中心に、教員間の情報交換・情報共有に努めます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は9割弱と全国平均より高い結果が出ました。子どもたちが持つそれぞれの夢に向かって、今できる小さな目標を立て、一つひとつ達成していくことを応援していきたいと思えます。そして、あきらめない心を育てる「ドリームサポーター」として子どもたちを支援していきます。また、規則正しい生活リズムを作り、午前中の学習活動に向かうエネルギーを蓄える意味でも「朝食を毎日食べる習慣」の重要性を発信していきますので、御家庭での御支援・御協力をよろしくお願いいたします。
--